

与謝 蕪村(よさ ぶそん)

資 料

掛軸 『蕪村断簡』



< 蕪村断簡部分の文 >

竹溪法師が丹後へ下るに
立鳴に眠る鳴ありふた法師
雨乞の小町が果やおとし水
山鳥の枝踏かゆる夜長哉
山家の菊見にまかりけるに
あるじの翁紙硯をとうでて
ホ句もとめれば

きくの露受て硯のいのち哉

いでさらば投壺まいらん菊の花

*『蕪村自筆句帳』に「断簡五」として掲載されている作品。蕪村一門の高弟で、南画家である紀梅亭(九老 梅亭 1734-1810)が俳画を描いている。

作 者

1716(享保元) - 1784(天明3). 12. 25

摂津国東成郡(大阪市)生まれ。

江戸に出て早野巴人に俳諧を学ぶ。写実的な俳風で中興俳壇の中心となり、晩年は蕉風復興を提唱する。独自の画風(南画)を確立し、池大雅とともに文人画家として活躍する。

参考文献

『蕪村自筆句帳』(尾形侑／編著 筑摩書房 1974

[県立 911. 34/20(11950300)])

『蕪村全集(全9)』(与謝蕪村／著 講談社 1992. 5-2009. 9

[県立 911. 34/112/1-9])

『芭蕉・蕪村』(尾形侑／著 岩波書店(岩波現代文庫 G15) 2000. 4

[県立 911. 32/234(21340054)])

『与謝蕪村の鑑賞と批評』(清水孝之／著 明治書院 1983. 6

[県立 911. 34P/35(12714465)])